

青森県弘前市鬼沢のハダカ参りへの地区外者の関与

Visitor's involvement in HADAKA-MAIRI (Visiting the shrine naked) of ONIZAWA Village

○藤崎 浩幸* 小菅 大輝*

○FUJISAKI Hiroyuki* KOSUGE Daiki*

1 はじめに

農村地域では若年層の流出や少子高齢化によって伝統文化の担い手の高齢化や減少という課題がある。例えば井上¹⁾は、宮崎県高千穂峡・椎葉山地域の神楽において奉納の中止や規模の縮小をしていることや神楽の維持のため転出者や地区外者が協力している事例があることを述べている。青森県弘前市の中心部から北北西に十数 km 離れた農村地域である鬼沢地区では、市の無形民俗文化財に登録されている「鬼沢のハダカ参り」が行われている。地区内の若年層の減少によりハダカ参りの要となる水垢離参加者が減少し一時期その存続が危ぶまれたけれども、現在では地区外から多くの水垢離参加者が得られている。そこで、この水垢離参加者を対象にハダカ参りや鬼沢地区に関する意識調査を実施し、地区外者の伝統行事への関与の深化に関して検討することとした。

2 調査方法

まず、ハダカ参りの運営体制などについて、運営関係者委員 3 名を対象に 2021 年 7 月に聞き取りを行った。次に、ハダカ参りが実施された直近 5 年間（2016 年～2020 年）の水垢離参加者 66 名を対象とした無記名アンケートを 2021 年 12 月に郵送で実施した。調査項目は回答者属性、水垢離参加経緯、ハダカ参りや鬼沢地区に関する意識についてで、有効回答数は 38 件（有効回収率 57.6%）であった。

3 ハダカ参りとその運営

「鬼沢のハダカ参り」は「鬼神社しめ縄奉納裸参り」が正式名称で、約 400 年前から毎年旧正月に実施されている祭事である。2002 年に「鬼沢のハダカ参り」として弘前市の無形民俗文化財に登録された。地区内の厄年の男性が厄除けとしてふんどし姿で樽に溜めた冷水に浸かる水垢離をした後にハダカでしめ縄を担いて、小学生生徒や登山囃子保存会などと行列組んで地区内を行進するものである。約 30 年前から地区外からの参加を受け入れ、現在では県外者も含む地区外者が水垢離参加者の中心となっている。この水垢離や行列を一目見ようと地区内外から多くの見物客が訪れる。

ハダカ参りの運営主体は鬼神社氏子ではなく鬼沢公民館しめ縄委員会で、町会関係者や氏子など含む地区の 50 代～70 代前後の男性で構成されている。他に防犯協会、農協女性部、登山囃子保存会、小学校や警察が各種準備や当日運営に関わっている。

しめ縄の材料となるイ草は 7 月下旬に地区内に自生しているものを委員が採集し、稲藁はしめ縄委員が生産したものを利用する。12 月にしめ縄委員会を開催しハダカ参りの実施体制などを決定する。しめ縄作成はハダカ参りの約 10 日前から、町会 12 班ごとに担当日が定められ全戸から 1 名ずつ参加し進められるものの、作成者の高齢化が進んでいる。水垢離に用いる桶は 1 週間前から水を吸わせ、ハダカ参り前日には境内の除雪、まわし・旗の準備や宮司によるしめ縄などへの入魂式とお祓いが執り行われる。当日は、

*弘前大学農学生命科学部 Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University

【キーワード】 伝統文化／地区外者の関わり／しめ縄奉納ハダカ参り／青森県弘前市

会場設営、周辺の交通整理や直会準備を経て、水垢離、ハダカ参り行列の行進が行われた後に直会が行われる。翌日は奉納したしめ縄の掛け替えや直会、水垢離などの片付けを行なう。なお、コロナ禍により 2021,2022 年は水垢離・ハダカ参りは開催されず、しめ縄作成・奉納・掛け替えのみ行われている。

水垢離参加者は当日社務所で装束を整えたり準備体操をしたりした後水垢離を行う。その後、神社本殿の前で写真撮影し、しめ縄担いで行進し、最後に直会に参加する。事前準備と片付けには全く関与しない。

4 水垢離参加者の状況と意識

水垢離参加者の年齢は 20 代から 60 代までで 40 代 39%と 30 代 37%が多い。出身・居住地については、鬼沢出身・居住 16%で、鬼沢出身・地区外居住と鬼沢以外出身・鬼沢居住を加えた地区内者 24%に対し、鬼沢以外の弘前市出身・居住 24%、青森県外出身・居住 24%、弘前市以外の青森県内出身・居住 18%と地区外者が主となっている。

図 1 に水垢離への参加理由をまとめた。本来の目的である厄払いよりも「水垢離したい」が全体では 31%と多い。地区内者では「ハダカ参り活性化」が 44%と最多で、勧誘は少ないのに対し、地区外者は、他人の勧誘と職場の勧誘を合わせて 41%と勧誘が多い。

ハダカ参り後の変化が図 2 で、地区内外ともに「清々しくなった」が 80%近く最多である。地区内者では、他の参加者や鬼沢住民と親しくなったが同程度存在する一方で、地区外者では他の変化は少ない。

今後のハダカ参りへの関与意向を示したのが図 3 で、地区内者に比べ地区外者は回答率が低く、特に今後の行事運営に関係するしめ縄づくりやハダカ参りへの寄付に関しては、1 回答者のみであった。

今後のハダカ参りの存続に向けて、地区外者の関与を深めるには、まずハダカ参りの運営や鬼沢地区や鬼沢住民への関心を高める工夫が求められる。

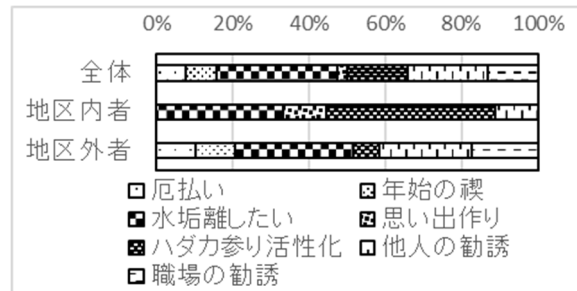


図 1 水垢離参加者の参加理由
Fig1 Reasons for Participation

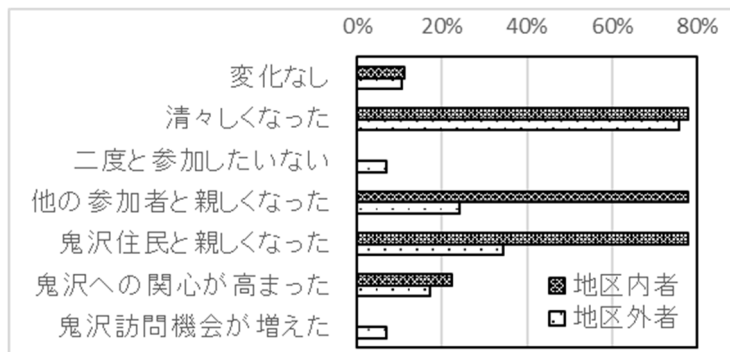


図 2 ハダカ参り後の自身の変化 (複数回答)
Fig2 Changes After Participation (MA)

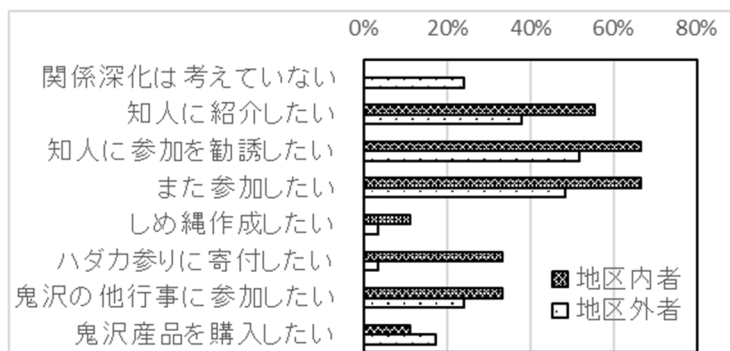


図 3 今後のハダカ参りへの関与意向 (複数回答)
Fig3 Involvement Attitude in Future (MA)

引用文献 1)井上「山間地の伝統文化継承に見る新たな農村文化の担い手の形」農村計画学会誌, 36-論文特集,375-382 (2017)